

別々の部屋で暮らしていますが、
それぞれ好きなリズムで暮らせて快適です。

神戸へゆうゆうの里 金子博俊様(75才) たづ子様(71才)

令和3年10月 各一人入居

結婚してから分かった
視覚障害を主人に受け入れて
もらって

たづ子様 主人とは叔母の紹介
で出会いました。当時主人は千葉
県在住、私は北九州という遠距離
の交際を経て結婚しました。結婚
して4年位経って、私に網膜色素
変性症という視覚障害があること
が分かりました。その時に私は離
婚して施設に入ることさえ考えて、
主人にもそれを伝えましたが、「重
荷ではないよ」と言われたおかげ
でふたたび再出発ができました。



博俊様の日課、朝の散歩とストレッチ

博俊様 僕は彼女の視覚障害につ
いてはそんなに悩みませんでした。
順天堂大学の名誉教授からも病気
の進行が遅いので失明するのが先
か、寿命が尽きるのが先かという
くらいですよと言われて覚悟を決
めました。それから二人でたくさ
ん旅行をしました。彼女が失明す
るまでに目に焼き付けてもらいた
いと、新婚旅行で行った北海道は
累計100泊以上しました。

視覚障害を受け入れてくれる
自立入居のホームはどこに

たづ子様 老後を考えるように
なったのは、ある日主人が脳梗塞
で倒れてからです。その時の私は
明るい中で漸く輪郭がわかるほど
の視力なので、「この人を助けら
れない」と思いました。同時に「主
人も歳をとれば、私を助けられな
いに違いない」と。

博俊様 老人ホームについては60
歳くらいから自分なりに情報収
集を始めました。家内は自宅で家
事も炊事も問題なくできていたの
で、自立入居型のホームを探すこ
とにしましたが、視覚障害者に合

うホームがなかなかありません。
神戸へゆうゆうの里は、
視覚障害の方もいらつしやる
と相談にのってもらうことにな
りました。

お互いが夫々のペースで
暮らせる一人入居を選択

博俊様 それに僕たちは一人一室
ずつ契約して入居しようと思っ
ていました。僕たちは生活リズムが
違います。彼女は視覚の制約か
ら家事はゆっくりこなしたい。で
も、僕がそばにいれば気を使わ
せしませよう。それにいざれば彼女が
一人になったときのことを考える
と、最初から一人の部屋で契約し
一人で生活することに慣れてお
くのも大事です。

たづ子様 私も別室が良いと思っ
ていました。西宮のマンションで
は目が見えなくとも何がどこにあ
るか全て把握して家事や炊事
ができていました。ここはその部
屋と似ていて、今までのように暮
らせようと思いましたが、実際に一
人で暮らせるか体験入居をしてみ
た時、スタッフの皆さんがどんな
質問にも確実に答えてくれました。
それも決め手になりました。

入居して一年はあっという間
でした。小さな贅沢がいつば
いできました

たづ子様 お互い自分の好きな
リズムで暮らせるようになりまし



ご夫妻と一緒に

た。食堂があるので主人のことも
安心です。食堂の食事が美味しい
のが嬉しいです。練習して食堂ま
で一人で行けるようになったので、
主人と食堂の入り口で待ち合わせ
て昼食と一緒に食べます。その後
一緒に近くのスーパーへ自炊の食
材の買い出しに行ったり。買って
きて欲しい食材は、主人に音声
入力メールで頼むこともありま
す。週に一度のアスレチックジム
トレーニングがとても楽しみ。そ
れに映画観賞会も楽しい。邦画な
らセリフを聞けますから。その時
に席まで誘導してくれるスタッフ
は優しいです。日曜日には教会に
行きます。

博俊様 僕は毎朝、里内を散歩
してからストレッチ。その後は口
ビーで新聞を読んだり、自分の
ペースで過ごしています。囲碁
サークルに参加したり、電車や
バスの旅を楽しんだりしています。
入居して妻の足の具合が悪くなっ
た時には、車椅子で診療所まで送
迎してもらい、体調が悪くなった
時にも安心を実感しました。僕も
満足しています。